

会 議 録

会議の名称	第4回西東京市図書館計画策定懇談会
開催日時	令和5年7月12日（水）午前10時30分から午後12時30分まで
開催場所	田無第二庁舎4階会議室3
出席者	【委員】出席：小西委員、島委員、鈴木委員、大塚委員、 小田委員、長谷川委員、山辺委員、 徳山委員（図書館長）、司城委員（副館長） （欠席）石井委員、伊尻委員、ギログリー委員 【事務局】金本庶務係長
傍聴者	0名
議 題	第1 これからの図書館の方向性について（案） 第2 その他
会議資料の名称	配布資料 資料4-1 令和4年度地区別貸出者数 参考資料 「私たちの望む西東京市の図書館」から考えられる図書館 参考資料 図書館計画新旧比較表 基本方針1、2
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>○図書館長 第4回図書館計画策定懇談会を開催する。 はじめに事務局から会議録の説明。</p> <p>○副館長 3回までの会議録校正について説明。</p> <p>○座長 今日の第4回、議題はこれからの図書館の方向性について（案）ということで、配布資料の確認と今日の議論の進め方と落としどころ、結論を導き出すかについて、館長の方から、事前に説明いただきたい。</p> <p>○館長 資料の確認をさせていただく。前回、青の数字を地区別貸出という形でお示しをしたもので、裏面が町名でその人数、住んでいる方の人数、登録層の人数などのデータを入れている。令和4年度の数字を入れているものを落とし込んだ。同じ資料の4-1のA4のものに関しては、その数字を元に何々町のポイントを落とし込んだものになっている。庶務係長から詳しく説明する。</p> <p>○庶務係長 （参考資料（資料4-1 令和4年度地区別貸出者数）について説明）</p>	

○座長

ありがとうございます。大変な労作で、いろいろな見方ができるが、図書館がどれだけ身近なところにあるか、というところの評価にも相関があるのかもしれない。どの分館をどのように個人が利用しているか分からないので、地域館の配置について読み取れるかということは、分からない。一番の目的は図書館と住んでいる方との相関を見ることである。

○委員

参考資料の計画の方の終了というところの意味をもう一度確認したい。先ほど副館長の説明のとおり、当たり前のことだから書かないというように受け取ればよいか。

○副館長

「終了」は取組みが計画どおり完了したもの。例えば、レファレンスの保存のところでは保存計画を決めることができ、館ごとに保存する方針が定まり、そのやり方で順調に進んでいるため、改めて保存見直しをする必要がないということで終了。部門によっては、常に保存のために考え続けなければならないということで継続。例えば、一般書はある一定の保存条件で取組みをした後、書庫の状況により、さらに条件を厳しく設定し直して取組みをするということを繰り返しているため、継続として残す。レファレンスの部分に関しては、決めた保存計画の形で、取り組めたので、終了という形になる。

○委員

私の理解があっているか確認したい。終了ということでここに挙げたものは、現在、進行中の図書館計画で挙がっていた課題が、5年間で終わって、次の計画の中には書かなくて良い状態になったということで、継続はしていくが、それを計画に載せるかどうかを検討した方がいいということか。

○副館長

内容変更の全くないというものと、内容変更ありというものがあって、変更ありの場合は、大抵が何らかの形で残す必要がある、変更なしの場合は、変更なしでも載せ続けようと考えている部分と、載せ続けていいのだろうかというのを含めて、同じ同列で、お話を進める過程の中で、この次元のものはあえてこの計画の中に載せなくてもよいというところを皆さんからご判断していただきたい。終了したわけではないが、計画からは外すという形がとれればと思う。

○委員

次回以降にそれぞれについてお話があると考えてよいのか。ここについて、続けるかどうか、書き込むかどうか。

○委員

図書館資料計画について一言。図書館資料組織と括ったとき、収集、開架、保存、廃棄と資料は常に動いていると認識するべき。現実には、資料保存を含めた年次計画は、施設や予算の制約のもとで苦慮していると考え。そのような状況の中で資料の各館を超えた配置換えによる書架更新のアイデアに感服している。「終了」の意味は理解したが、今後とも相違ある図書館資料計画の策定を願う。

○座長

この議論は、具体的に基本方針についてサービス内容というか基本方針を次回以降、検討

する時にもう一度考えることになるが、いずれにしても、今のところ、やっていることすべてを対象にするかどうか副館長から出されたが、そのようなことをすれば、項目がものすごく増えて、いったい何に注力していくのか分からなくなるので、基本的には、今回の5年間の取り組みで大事なことは何なのか、この懇談会の皆さんが、どれを中心に上げて欲しいかということ議論していくのだと思う。委員のおっしゃったように、ずっと続けているからその仕事はあることは、お忘れなくは当然だが、通常の仕事はこうあるけれども特にここを課題として取り上げていく、ここを5年間見ていきましょう、ということ話し合うことになる。ずっと書き続けなければいけないということは多分ないと思う。常識としてこの課題は終わったというならこの項目は消えて良いのだと思う。新たに装いを変えて別のものが出てくるかもしれない。ではこれは、次回またこの議論をするのでよろしくお願いしたい。

それでは、資料の説明が終わったので議題に移る。今日の議題に関しては、施設の問題、この10年間は、おそらく新しい施設が建つということは起こらないと予測がある。次の10年間にどのような新しい図書館構想を持っているかということはこの懇談会として議論しておかなければいけない。その議論の一部分を9月ぐらいまでには示しておかなければいけないという私の方の認識があって、前回に皆さんで中央館が欲しいとかいろいろなことを出していただいたのだが、その続きで、まとめていこうかなという気持ちでいたが、館長の方から正確にどの議論をどこまでして欲しいというのをお示しいただきたい。

○図書館長

今回、これからの西東京市図書館の方向性などをこの計画の中に入れていきたいと考えている。現行計画の冊子のp35以降にも記載があり、5年前にも議論いただき、その時にも方向性や機能とかそういったものは書いてはある。実際にこの5年間というのは、中央図書館の耐震がメインなところもあったので、実際に今ある施設をどう利用しやすくするかというところはやってきたが、今も課題として変わらずある。計画をこれから作っていくには、35p以降に書いているところに加えて、どういうものが良いのだろうかというものを入りたいと考えている。そこで、一つは、昨年度の図書館協議会の方で「私たちの望む西東京市の図書館」というものを作っていた。これを元に西東京市図書館がやっていく、そのサービス・運営の部分も含めて、新中央館の必要性を、市全体として認識してもらうためにも、この図書館計画の方で、中央館・域館の機能はというところの部分で深堀ができればありがたい。

○座長

一旦、私の理解だが、私たちは、次の5年間の図書館計画を策定するために集まった懇談会で、市の総合計画もあって5年間単位ではあるけれども、第一次、第二次という言い方で言うと10年単位で、つまり10年計画で立てていく。市の10年計画の観点から考えると、次の10年間の中では、図書館を新築するというようなところまで多分、これは見通しとしてあり得ないだろう。私たちはいずれにしても現行の地域館の体制でこれからの10年をより市民のニーズに答える図書館にすべく、細かいサービス内容を考えていく。ただ、次の世代、10年経って次の時には、館長の説明にもあったように、どう考えても、現行の図書館体制の維持はできなくなるだろう。施設の老朽化とか、様々なことで、今の体制を維持することはできなくなる。とすると、新しい図書館の構想を求められる。その構想は、従来からいろいろなところで議論されたように、今の地域館を中心とした、ほぼ力が拮抗した図書館で連携して、市民サービスを行うという形からもう少し中央図書館というパワーを持った図書館を中心とした形に切り替えていく必要があるだろう。ということが流れとしてあると思う。つまり、私の理解では、これからの10年間は、新しい図書館の事を考える期間ではあるけれども、新しい図書館に着工する期間ではなさそうだと。新図書館についての構想をきちんと固

めておく10年間である。つまり、いつ何時図書館は、西東京市にふさわしい図書館はどんなものであるべきと望んでいるのか、聞かれたときにはきちんと示せないといけない。ではいつ聞かれるのか、9月にも聞かれる可能性がある。館長が私たちに望むのは、新構想の図書館というのは新中央図書館というふうに考えたほうがいいかもしれない。新中央図書館の機能はどうあるべきか、それと連携すべき将来の地域館はどうあるべきか、役割分担をどうするか、というようなところを詰めて欲しいというふうに受け取った。そして、その時に一つの案としては館長から示していただいているのだが、今回は、中央館という構想と、その中で提供するサービス機能が沢山並んでいたが、地域館の方にもいくつかあるという形で構想される。さらに、今日示されたように、図書館協議会の方で決めいただいた13の「私たちの望む西東京市の図書館」というものの実現のために新中央館や新地域館がどのような役割を担っていくかということを考える。私がちょっと理解できていないので皆さん説明をお願いしたい。

○委員

「私たちの望む西東京市の図書館」は、昨年度の協議会で検討して作成したが、今日いただいた資料だけ拝見すると、中央館と地域館が別のことをするように見えてしまう。私の理解では、この13項目は、中央館、地域館関係なしに、西東京市の図書館のスタンダードとして必要なものだ。実際の役割とか機能については、中央館、地域館で変わることも出てくると思うが、例えば安心安全な図書館とか、ひとり一人に大切な図書館は、中央館、地域館どちらにも必要なこと。各館にラーニングコモンズを設けるというのは、なかなか厳しいだろうなと想像はつくけれども、平和で安全な街を考える資料の充実した図書館というのは、中央館には原爆小文庫があり、地域館にはそれはなくても、各館それぞれに平和で安全な街を考える資料が最低限揃っているとか、心の安らぎの場であるということ、単に予約本を取りに行くだけでも、そこにいる職員の方と、いろいろなやり取りができるようなそういう図書館を私はイメージしているし、そうであって欲しい。新中央図書館ができたなら、機能に関しては、中央館と地域館は、分けていく必要があるとしても、図書館の目指すものは、中央館・地域館どちらも西東京市はこれを図書館として目指すと確認した上で、その役割機能を分けるとしていただかないと、中央館は立派になっても、地域館はどうなるのか、この表の説明だけ見たらちょっと心配。

○委員

話を座長の話に戻すが、この10年というのはくくりをされ、とりあえず10年は施設が動かないだろうという、その辺りの理論をきちっと据えたいうで、新中央図書館構想を考えた方が良くもしいかもしれない。例えば公共施設マネジメント計画、第2次が5年続くかもしれない。当面の現状を踏まえた時に、例えば、現在の6館配置は堅持するというふうな視点、新中央図書館ができたなら、現在の配置されている6館は地域館として位置付けるとか。例えば、中央図書館は、新中央図書館の設立後は、地域行政資料室と議会図書室の機能を包摂しているような図書館として、この場所に置くとか、非常に変な発想かもしれない。あるいは、都営住宅と併設されている図書館は、いろいろと都の行政の絡みもあって、どうなるか分からないけれども、どういう形で移管されたり、配置されたりするか分からないけれども、その近くに図書館が欲しい。保谷の駅前ですと、商業施設に入っているの、あの施設がどうなるか分からないけれども、とにかく、その近くには図書館が欲しい。東伏見は空白地帯ではあるけれども、東伏見のふれあいプラザで予約の受け取りとかしている。かつて、所沢市がコンビニで貸出というふうな話があったのを思い出した。まちライブラリーみたいな話もあった。その時、ぼくは昔文庫というのがあって、空白地域には、何とかそういうものが作れて、建物でなくてもいいだろうと言いながら建物にはなるかもしれないが、まあ、そういうものを配置することによって、とりあえず現中央図書館を維持しながら、それぞれの機能を

考えていくというようなことを、とりあえず抑えた上で、新中央図書館は併設ありとか言いましても、博物館機能を持ったものと一番文化施設とくっついた方がいいかなという思いはあるけれども、ホールについては、コミュニティーセンターの一角でも分室みたいなものも設けられてもいいのかなと思うけれども、とりあえず、原則は現時点では6館を維持するような形で空白地をサービス拠点に置きながら決めていけたらいいのに、まあ、話のタネに、その上で、新中央図書館の構想を考えたらいいかなと考えていた。

座長の発言に戻すが、「西東京市にふさわしい図書館構想を示めさないといけない」のが懇談会の任務と考える。皆さんも特に新中央図書館のあるべきイメージを描いているのではないか。現実には市の総合計画に縛られるはするが、将来の西東京市図書館ネットワーク構想を提示する任務がある。個人的には、将来的にも現6館の西東京市図書館ネットワークを堅持することを願っている。仮に施設の耐用年数で建替えを余儀なくされても、少なくともその近くにとそのうえで望ましい新中央図書館のイメージとともに地域館と位置付けられる現6館の配置と機能役割を考えたらと思う。もう一つ「まちライブラリー」の件についてはかつて地域家庭文庫が図書館サービスの機能を果たし空白地帯をカバーしたのではと認識しているが、新しい時代にふさわしい視点で西東京市図書館ネットワークの構築ができることを願いたい。

○座長

今、委員から整理がいただいたように、この西東京市の図書館体制を将来にわたって考えていく時に、新しい建物が登場するまでは少なくとも現在の6館配置を堅持しその中でサービス向上できることは最大限やっていく、これはもうよろしいか。これをまず外すと、どうせ新しい図書館建てるから分館ひとつずつ、つぶしていけばいいと言われた時に、将来に向けてやっているからといわれたら、とっても大変なことになるので、現在の6館体制を堅持していく。そうして、次に新しい図書館を、施設をいじる、施設に手を付けていただけるのであれば、私たちとしては、いわゆる中央図書館の機能をもったパワーのある図書館をまず一つ作っていただきたい。そして、従来の地域館を含めた中央図書館を中心とした図書館網、もっときめ細かい図書館網を考えていただきたい。そういう構想に落ち着くと思う。それで、先ほどの委員のご指摘のように、多分、館長もそういうつもりではなかったと思うけれども、多分これ、13の項目に最終的には13の項目のこの項目を実現する機能は中央館がやった方が良く、地域館は当然小さくてもこのぐらいのことやった方が良く、というように最終的には同じ所に落ち着くとは思いますが、考え方としては、多分、これらの13の項目を実現するために、西東京市の図書館が、果たさなければいけない役割や機能は、どうだろう。それは、全体を考えた上で、もし、新中央図書館構想を立てるなら、そのうち、これは新中央図書館でやっていただきましょう、これは従来の地域館機能、あるいは、もしかしたら、まちライブラリーとか、様々なことを掻き集めて分担してやりましょうというような、形になるのか。それで、館長だけずっと懸念されている中央図書館がどんな役割を果たすか、その時、各地域館はどんな役割を果たすかということについて、議論してほしいというように言われているようだが、これは、どうか。委員の意見のとおり、前提として西東京市の図書館が果たさなければいけない役割・機能が何なのかを委員の方に出していただいて、そのうち、これは新中央図書館というものに担ってもらってというような考え方ではダメか。

○図書館長

新中央図書館というものに関しては、図書館でやらなければならないことを網羅した形にしたい、というのはあるので、その機能の中で、例えば現計画の36pにある基本的なサービスの機能というのは、これは実際にやっているサービスのところが主に書いてありますが、ここの部分でも先程少し話したように、中央館ならではのサービス機能を加える、新しいサ

ービスを入られるのではないか、であるとか、もっと市民の皆さんから、こういうものがあれば、もっと使いやすいとか、出していただきたいというところがある。先程言ったように、地域館は規模に関係なく、中央館に行かなくても地域館で満たされる図書館というものは、どのようなものか、それが貸出、予約の受け取りだけでなく、他に何が最低限あると良いのか、そのような部分を示すためには、どのような内容が必要なのか、という部分を含め、先程言ったように13項目とは何か、ヒントはないかというところで、地域館に、これは必要、これはいらぬということを示したのではない。

○座長

全体的に必要なことは、新しい図書館を作るにしても、要するに、私たちの西東京市の図書館が西東京市民のために、どんな役割や機能を果たしていくことが理想なのかを、みなで出し合おうというのがあると思う。そのために、図書館協議会の方で考えていただいた私たちの望む西東京市の図書館の13項目、というのは、ある程度、抽象化された表現になっているが、具体的にはこういうことやって欲しいんだということで、多分、私たちは一人ひとりを大切にする図書館を望みますということは、2番目の、私たちは、誰でも利用できる図書館を望みますと、言った時には、どのような立場に置かれている市民であっても、利用できる図書館ですから、視覚障がい者の方とか、障害を持った方でも十分に使いやすい図書館であることを、きっと含めた全市民層が使える図書館のために、何をすべきかと、いうことをイメージできると思う。話をどのように進めていけばよいか迷っているところだ。

○副座長

委員からの意見にもありましたが施設のところ。この間ずっと施設の話が出ていて、そこを検討しないと先に進まないと思う。前回、前々回と調査結果が配られていたので、今回出席にあたり読み直してきた。例えば、町別の登録、前回配っていただいたのが登録者別だったけれども、全体の登録率が14.92%、それで少ないところが13%未満というのが、西原、新町、東伏見。少ないと言っても、13%未満で9%ぐらいのところもあった。感想としては、南側のところで登録数が低いけれども、うまくバランスよく登録されているなというように捉えた。そういう意味では、図書館の配置は良いのではないか。他自治体の図書館と比べても、西東京市は館の配置というのは、うまくできていると思う。東伏見と新町福社会館の図書サービスがある。多分、その地域に図書館が欲しいと言う中で、そのようなサービスをしたのだと思うが、これは本当に良かったのか、どうかというのは、一度、評価をした方が良いと思う。また、滞在型というような話があって、今回の調査でも、滞在時間何分ぐらいありますかと、調査が出てきているけれども、都立中央図書館を調べたら1時間以内14%だった。兵庫の芦屋は1時間以内74%、多分、機能が違う。西東京市が63%ぐらいか。滞在型、滞在型とよく言うけれども、多摩地区で滞在型の滞在時間とは、本当に西東京市は滞在時間が短いのかというところ、数字としては、大事だと思った。調査で図書館で力を入れて欲しいのは何かっていうと、圧倒的に本の充実。それは、大人の本だけでなく、子どもの本でも、本の充実を求められている。15歳以上のアンケートでも、子どもの本の充実と出てきている。図書館の役割として望むものは、資料の保存が大事だと出てくる。あと、子ども読書活動推進というのが2番目に出てきて、あと、生涯学習の支援というのが出てくる。これは、調査研究への支援だとか講座の開催だろう、というように思うけれども、図書館はどこにあれば利用したいか、というと徒歩、自転車で行けるところがダントツで多くなっていく。そうすると、生活圏に図書館があることが望まれるということだと思う。あとは、商業近くだとか、交通アクセスに便利な場所というのがあるけれども、交通アクセスに便利な場所というのは、駅だと思うけれども、商業施設というところにも、結構数字が出てきている。西東京市の商業施設とは、どこのことを言っているのかよくわからないけれども。

○委員

保谷駅前図書館は西友のある駅ビルにある。

○副座長

あと、貸出、返却、予約以外で、必要なものは、書架だとか、閲覧スペース、学習室、自習室なんかはかなり強く出てきている。こういうところからでも、市民が求めている図書館というのは、出てきているような気がする。あと、自由意見を見ても、自習室、閲覧室の拡充が多いなど、居場所としての機能を拡充して欲しいとか、どこで欲しいかというのと、そうすると、いろいろここで意見が分かれてくる。例えば、現状のままで良い、減らさないで良い、移転しないで東伏見駅近くに図書館がないので不便だ。各駅に直結した図書館を作りたい、あとは、滞在型にして欲しい、一つ大きい図書館を作りたい、小さい図書館はいらない、コミュニティバスで行き来できるようにして欲しいというような意見も出てきている。やはり、そういうのを整理するのがこの場だと思う。この場では新中央図書館のイメージを出していけばいいと思う。やはり、ずっとこの何年間か、議論で出てきているのは、施設計画の話は出ても、その所をもう踏み込まないという感じがすごくしている。そこを今回整理する必要があるだろうなというように思う。奥歯にものが詰まっているのは、どうもいつも施設計画のような感じがしている。

○座長

整理していただいて、やっぱり、施設の問題を最初に議論して欲しいという館長から依頼があって、始めていたのだが、やはり、今、副座長から説明があったように、決着をつけると言ったらおかしいが、懇談会として、私たちがこう望むというところまで言ってしまおうとか、そうしないと、いつまでたっても收拾がつかないといったところと、それを考えていく上で、市民アンケートを含めて、既に市民の方から出されていることが沢山あるし、それをきちんと踏まえるべきだし、市民が決めかねているところこそ、この懇談会で結論を出すべきだし、ということで懇談会として、一つのこうすべきだ、こうあるべきだと詰めてよろしいか。

○委員

繰り返しになるが、懇談会として新中央図書館を含めた西東京市図書館ネットワーク構想は提示してよいのではないかなと思う。もちろん、市の総合計画との関係もあるので場所は特定できないとしても。

○副座長

前回の計画の35p以降は、5年計画プラスアルファの付録だったわけだから、今回も懇談会の意見として行政計画に載せるのは良いことだと思う。我々の思いをぜひ具体化してもらいたいと思う。遠慮する必要はない。

○座長

ちょっと理解できていなかった。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴというのは、付録扱いということだったか。

○副座長

図書館計画は5年計画です。前回計画のⅤ章の「中長期的な図書館展望に向けて」というのは、5年以降という。

○座長

5年の枠に入っていない。

○副座長

付録という表現が良くなかった。訂正する。

○座長

将来展望。前回はそれぞれの施設については、夢も含めていろいろとご意見を出していただいた。一応、懇談会として、少なくともこの5年間は、今の6館体制を堅持していくということを踏まえた上で、新しい図書館構想を持っているんだと、その図書館構想は、こういう内容だということを示すということで、よろしいか。

○委員

図書館本体だけでなく、例えば待機児童の居場所とか、乳幼児の世話ができるスペースがあるとか等、いろいろな利用ができる施設の中に図書館もありますよといった構想を考えてみてはいかが。図書館だけ作りますでは行政も返事がしづらいと思う

○委員

これからの5年計画は、現中央図書館と地域館を堅持しながら、サービスを見ていくと言われたが、今の中央図書館はスペースも含めて不足している面があることは周知の事実である。すぐに新しい館ができなくても、既に見えている問題を解決するため、それを検討していくということ、これからの5年間の計画の中に入れる必要があるのではないかと。将来展望だけではなくて、問題に対して何ができるかを検討していくことが、計画の中に入っていないといけないと思うし、臨時に小さなできることを積み上げてみることも必要だろう。例えば、保谷庁舎の跡地で広場になっているところに、簡単なプレハブを建てて、子どもたちの読書会を開くとか、貸出スペースサービスをするとか、小さなことでできることがないかを探って1年目検討、2年目試行など、5年間で段階を追ってやるというのがこの計画だと思うので、そういうことが、できないか検討してほしい。特に、候補として挙げられている場所、保谷庁舎の跡地とか、泉小の跡地とか、そんなところで小さなサービスをやっていけないだろうか。今までの計画を踏襲するだけではなく今後の5年間の計画について、その先を見据えた小さなものが、入れられると良いなと思って皆さんの議論を聞いていた。

○委員

現行計画策定の時には世田谷区図書館の視察研修があった。今回、視察は無いのか。いろいろなことを考えるのに他の図書館見ると大変参考になるが。

○座長

10年間、全く新しい建物を建ててもらわないということを結論に進めきれないのは当然。常に、現状で不足していることを実現していくために、こういう計画を持っているというように、示していけるのが大事。もちろん先ほど冒頭に申したとおり、見通しとしては、そんなことはあるけれども、十分なサービスを展開していくには、今のままの体制では困りますということ、当然、言い続けなければならない。その中で、新中央図書館新築の問題を話してきたが、それについては、複合化というような形で図書館だけ、素晴らしくするのは、市民全体の賛同は得られがたいという懸念があるので、そういう他の文化施設等々の組み合わせっていうのも、提言していくのはあると思う。武蔵野プレイスの場合は、武蔵野市に公民館活動というのが、西東京市ほどに定着していないというのがあって、あの複合施設は公民館機能と図書館機能を合わせたもの、どちらかという、公民館機能の方が多い

ぐらい。おそらく面積的には公民館機能の方が多い。子どもたちがダンスをしたり、そういったグループ活動をしたり、広さ的にはそうに思う。そうなると、西東京市の場合は、公民館との連携は考えられるのかどうかということも、考えていかなければいけない。先ほどの意見の中で、新しい図書館を考えていく場合に、従来の図書館の中でも、決定的に不足しているのが、閲覧室不足なので、滞在型といっても、閲覧室が少なかったら、閲覧席というか昔は、学習席という時代もあったが、そういうところが少なければ、いることができない、本借りたら帰ってね、というのが70年代の図書館の思想、今の図書館はそうなっているわけで、それは改善、プレハブでも何でもすぐにも着手しなければいけないことなのかもしれない。そういうことも含めていく。それから、こういう、新しい図書館の事を考えていくこと自体が、5年計画の構想の中に、図書館構想を考えていくこと自体を計画の中に繰り込むべきと思う。それは、先ほどの第5章のところに、ここでは、将来の図書館、それ自体を付録ではなく、正式な計画の中に盛り込むような形、そうしていった方が良い。引き続き、ご意見をお願いしたい。

○委員

新図書館の前提でということだが、資料35p以降の37～4.5.6のところに、かなり具体的なことを数字ですとか、こういうことを研究するというのをその言葉を拾うことができたので、行政へ何か折衝する際の説得材料というか、そういうことにすればいいのではないかということを見ながらお聞きしながら思っていた。あと新図書館を保谷庁舎の跡地に仮に考えると、自分が一市民として思ったのは、柳沢図書館の近くに公民館があったと思うけれども、先ほども、武蔵野プレイスのこともあったが、何か、公民館的なものを、今の中央図書館にないようなものを、そうした機能持つものを、併設といいますか、そういうアイデアも行政の方に働きかけることによって、あればいいのではないかと思った。あと、新図書館を考えているということをいつ解禁にしているのか一市民として気になっている。その情報を解禁した場合に、市民の子どもたちに聞いてみるのもいいと思った。というのは、思いもよらないことも言ったりするので、あと、早いうちから当事者意識を持ってもらうのも必要なのではないかと思った。広く巻き込む仕掛けというのが必要な気がする。

○委員

次回が第5回の懇談会となる。現行計画の策定では、素案が10月にできていたが、今後どんな流れとなるのか示していただきたい。

皆で分担してすることがあるのか、示していただけると、次回欠席なので、家でできることはして図書館にメールで意見を送るなど、できると思う。

○座長

今、委員の言った道筋の部分が非常に大事だと思う。座長が整理できておらず、大変皆さんの議論を阻害してしまったが、施設でこだわって第一回目から来たわけだから、その決着を出しておこうということで、次回には、懇談会としての施設の結論は、結局、新図書館にどんな機能を持たせ、その時に考えられる地域館とか、他の図書館機能をその時には結論というか、懇談会としての結論を出しておく。そうすると、図書館の機能、羅列的に言えばいくらかでもあるわけだが、これは誰に向かって図書館の主張をするかによってずいぶん違ってくる。その辺どうするか。要するに、懇談会としては、西東京市に新図書館とそれに付随するその他の図書館網を考えておりますということを宣言するわけだが、その相手は誰であるべきか。つまり、市民に向かっていう意見がそうなのか、行政に向かって言うのか。

○委員

策定懇談会委員としては、行政に対して意見を出す市民の立場で良いのではないかと。私

は、市民が行政に向かって言う立場とと思っている。

○図書館長

行政として市民の方に向かって出す計画だ。

○座長

行政というのは図書館も含めて、市を切り盛りしているところに向かって私たちは、市民を代表して、市民の方々の意見も踏まえてこういうことを図書館に望みます。こういう図書館を自治体に求めますと。

○庶務係長

総合計画もそうだが、教育計画も含めて各課の個別計画、その時に公開される文書、計画なので、市民に向かって、行政としてこのような計画を作りましたというのが基本です。ただ、行政の人間だけで考えてしまうのではなく、広く市民の意見を聞いた上で、作った計画とする必要があります。

○座長

当然、誰からも、そうだそうだと言われる計画を立てればいいだけだ。

○副座長

最終的には、この計画書になるわけだが、今日の所では施設のところを少し考えようという話になった。中長期的計画というところになるわけだが、具体的な叩き台の文書というのは事務局が作るのか。

○委員

事務局でたたき台を作ってくださいなのか。

○副座長

次回たたき台として出してもらえれば、それを元に議論ができる、委員もいなくても意見が言える。かなり忙しい、無理だったらいいが、そろそろ具体的に進めていかないと。

○座長

多分、副館長が基本方針1.2については比較表をいう形で用意していただいているが、これの右側の部分が、5年計画の叩き台にしてくださいという意味だと思う。この紫の冊子の施設を除く部分は、こういう形で随時出てくるので、これに対して付け加えるところ、これはやめましょう、という形にしていこう。だから、議論自体は比較的早く済むように思うし、事務局の方は大変かもしれないですが、5年変更なし等詰めていただいて、右側の欄を用意していただいて、随時出てくるということだと思う。ただ、施設のことに関しては、たまたまそういう形にはなっていなかったもので、議論が紆余曲折したけれども、施設に関しては、先ほどの議論で懇談会として、望ましいのはこうだというのを示していきましょうということになったので、それを次回することになる。今回は、せっかく示していただいて基本方針の1.2のぐらいのところをやりたいところ。さて、どうやって新図書館の機能とそれらのあれについて、まとめていくかということだが。先ほど、副座長から、市民アンケート等々をこれまでに出ている資料まとめると、結構答えは出ている、という意見があったので、そういうのを拾い上げて次回整理していけば。ポイント的には私たちが新図書館に望むことは、先ほどの滞在型だとか、保存機能だとか、今不自由分だと思うことを解決することを望むわけだから、そのことを皆さんに強く言っていただければいいわけか。

○委員

計画そのものの全体は、図書館で作っていただくというイメージでいるけれども、それでよいか。

○座長

この、紫の1～4はそう。というか、はっきり言って変わっていない部分は、従来のやつを叩き台にしてということになるが、図書館員の方にもたくさんのご負担をかけることはないと思っている。

○委員

アンケートのまとめとか評価はどのように扱うのか。図書館がアンケート内容をどう考えているか、そのところがわからない

○座長

それは図書館職員の方々がどう思っているのか。反映していただきたいという話を冒頭に。この3月か何かに、職員の方の意見をまとめたもの、それを読み込むとある程度、職員の方々の意見を入れることができる。だから、事務局の方から出される叩き台で、議論していくときに、それを読み込んで含めていくというので、いかがか。あと、私たち各懇談会委員の意見。

次回、新しい図書館に備える機能と、場所とかは具体的に言っても意味がないと思うのでそういうことは言わないが、規模的なこととか、保存機能だとか、一番大事にしたいところをきちんと実現できるように項目を挙げていくことになるが、イメージ的には、前回ここで書いている新図書館の機能よりは、具体的にもっと詳しく書いていくということによいか。

図書館協議会の方で、ずいぶん新図書館については議論していただいて、その時に、各委員がこの委員として出していただいている。

○委員

出したい人がそれぞれのイメージを出したというところだが。

○座長

こういうのを一応まとめる形で、議論の叩き台はできると思うが、抜けているものとか、次の回に議論すればそれで。先ほどの副座長が拾ってくださったような、アンケートに基づき言われていることとか、次回の出てくる資料によって議論が相当違ってくるので、いかがか。

○図書館長

次回出す資料も含めて事前に送る。

○座長

議論がうまくまとめられず申し訳ない。次回、施設について懇談会としての要望事項をまとめるという形にしたいと思うのでよろしくお願ひしたい。合わせて、実際の計画の本文について各基本方針ごとに議論にできればそちらに入っていきたいと思う。

長時間にわたりありがとうございました。

